

愛知きわみ看護短期大学
学長
土井まつ子



医療の質は看護職の質で決まる。
この信念のもと、考え行動できる看護師の
育成を目指し4年制大学の開学を

「病

院医療の質は看護婦の質
によって決まる」。これは、

本院の前身である大雄会一宮高等看護学院の創設者・初代学院長の信念です。看護師は医師の補助者という見方もあった当時、先進的な考えであり、私も大変感銘を受けました。

同学院はその後大雄会一宮看護専門学校となったのち発展的に閉校し、2004年愛知きわみ看護短期大学が誕生しました。08年には受験資格に「非喫煙者であること」を掲げ、09年には「診療情報管理士」の受験資格認定校になるなど、時代に先駆けた特色ある看護教育を展開してきました。しかし、看護をとりまく環境は今まで以上に変化してきており、少子

高齢化も進んできています。多くの高齢者が慢性的な病いを抱える社会では、それを支える看護職がますます不足してきます。地域包括ケアシステムの構築が進む中、在宅医療にどう対応していくかという課題もあります。病院内にいると患者さんの社会的背景まで思いが及びにくいですが、地域医療においては、患者さんの生活環境や家族関係まで理解する力が求められます。また、常に近くに医師がいる病院と違い、その場の状況を判断して適切なケアを提供する必要もあります。

こうした新たな力の養成を現行の短期大学のカリキュラムに追加して行うことは困難であり、そのための17

年度、一宮研伸大学看護学部(仮称)新設です(設置認可申請中)。

看護職は考えて行動する職業であり、看護学は実践の科学と言われます。大学では、今まで以上に学生の考える力を育むことに注力します。特に重視するのが4年間を通じたゼミナール学習。自分たちで決めたテーマについてディスカッションを重ねるなどしながら、受け身ではなく自ら学び、考える姿勢を養います。

加えて充実させたいのがシミュレーション学習。臨床実習の場では遭遇しにくい急性期の症例を想定したうえで、どう行動し、患者さんやその家族にどのようなケアをするかなど判断力を養う学習です。こうした教育においては、臨床現場のスタッフの力も借り、日々変化する医療現場に即応する体制を整えます。

私自身、看護師として勤務してきた経験から、この職業のすばらしさを実感しています。今日では、看護管理者になる道だけでなく、さまざまなキャリアを築くことも可能です。命を大切にできる人、相手の気持ちに寄り添える人、そして、なりたいたい自分何かを考えられる人などに来ていただけたらうれしいです。

【学長プロフィール】どい・まつこ●名古屋大学医療技術短期大学部助手(1990~91年度)、岐阜大学医療技術短期大学部助教授(93~94年度)、静岡県立大学看護学部教授(98~2002年度)、愛知医科大学看護学部教授(04~12年度)などを経て、2015年4月より現職。

【短期大学プロフィール】2004年、学校法人研伸学園 愛知きわみ看護短期大学開学。17年、学校法人研伸学園 一宮研伸大学(仮称)を開学予定(設置認可申請中)。